

※問題用紙は解答用紙とともに、試験終了後に回収します。
※受験番号は解答用紙に記入してください。

【問題用紙】

譜例は、19世紀初頭に N. パガニーニ (Niccolò Paganini, 1782-1840) によってヴァイオリンのために書かれた《24のカプリース》op.1 より、第11曲の最初の18小節である。この譜例を見て、以下の各問い合わせてください。なお四角で囲まれた数字は小節番号を示している。また譜例は試験問題に適するよう原曲から一部改変してある。

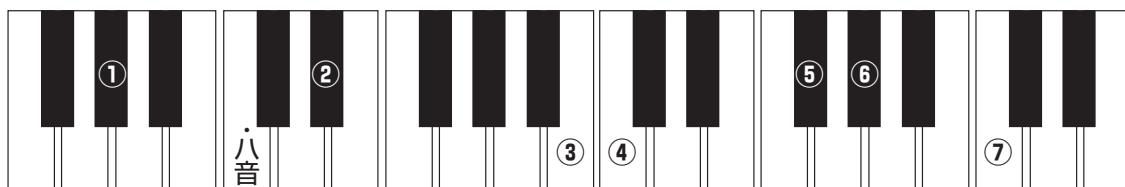
1. ア～コの音程を日本語で答えなさい。ただし複音程は単音程に直して答えること。また転回音程同士（例：「ウとオ」）および異名同音程同士（例：「ウとオ」）の音程を、「例」を除きそれぞれ二組ずつ記号で答えなさい。なお、同じ記号を重複して使用してもよい。
2. A～Eに示されている箇所で鳴らされる各和音の種類（例：「長三和音」等）とその転回形（例：「基本形」「第1転回形」等）を答えなさい。
3. 音符が隠されたf、g、h、iの箇所では、下記の鍵盤上の数字に対応する音が以下のように鳴らされる。譜例に記譜すべき音を、それぞれ五線譜上に全音符で記入せよ。

$$(1) f \rightarrow ① + ② + ④ + ⑦$$

$$(2) g \rightarrow ⑤$$

$$(3) h \rightarrow ③$$

$$(4) i \rightarrow ⑥$$



4. Yの旋律（最も上に書かれているパート）を階名で読むとどのようになるか、以下の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| a. ミ - ソ - ファ - ミ - レ - ド | b. ソ - シ - ラ - ソ - ファ - ミ |
| c. ド - ミ - レ - ド - シ - ラ | d. シ - レ - ド - シ - ラ - ソ |

5. Zの部分を増4度上げて移調した場合に必要となる臨時記号を、解答用紙の音符に書き加えなさい。

6. 以下の文章は、譜例の音楽的構造について、調の変遷を中心に説明したものである。下線部分に正しいと思われる言葉を下枠の選択肢より選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を重複して使用してはいけない。

この曲は、開始わずか2小節目の終わりで早くもアにあたるイからの借用——すなわち一時的な転調——を試みるもの、曲はあくまで明確なウによって幕を開ける。やがて7小節目では9小節目から始まる転調への布石が打たれ、8小節目でいったんの終止を迎えるが、その和音は主和音ではなくエ和音であるため、安定よりもむしろ「次へ進め」と促すような緊張を残す。

9小節目からは、主調から見てオのアという関係の調へと転じるが、この調、カは主調からみて近しい調とは言えない。しかしだからこそ、8小節目までが主題の提示であったことが一層くっきりと浮かび上がるのだ。やがてカがしばらく続いたのち、14小節目の終わりで音楽はそのアにあたるキへと移る。同時に特定のリズム音型が様々な和音の上でくり返され、波打つような響きが音楽をたゆたわせる。その効果として音楽はさらに流動的になり、次のセクションへの橋渡しの役割を演じるのである。

1. 属調	2. 平行調	3. 下属調	4. 同主調	5. ハ長調	6. ヘ長調	7. ト長調
8. ハ短調	9. ニ短調	10. イ短調	11. 変ロ長調	12. 変ホ長調	13. ト短調	
14. ヘ長調	15. 終止	16. 軸	17. 離脱	18. 属	19. 下属	

7. この譜例全体を $\text{♩} = 72$ で演奏した場合、演奏時間はどのようになるか、「秒」の単位で答えなさい。ただし演奏に際してテンポはまったく揺れないものとする。

8. 和音 C が属する短調を下属調とする調の音階の上行形のみを、バス譜表上に全音符および調号を用いて、主音から主音まで書きなさい。なお短調の場合は旋律短音階で答えること。

(問題ここまで)

【譜例】

Andante

Violin

A

B

C

D

E

F